

# 明石海峡における通航船舶隻数6年連続日本一

～平成26年度明石海峡船舶通航実態調査結果（速報値）～

第五管区海上保安本部では毎年、明石海峡を通航する貨物船やタンカー、旅客船、漁船、プレジャーボートなどの通航実態調査を行っており、平成26年度の調査結果（速報値）は、1日平均781隻（前年比70隻減）で、過去5年平均（790隻）を若干下回る結果となりました。

今回の調査では、タンカー、旅客船等は過去5年間で最も多くなりましたが、貨物船等は最も少なくなりました。

## 1 調査概要

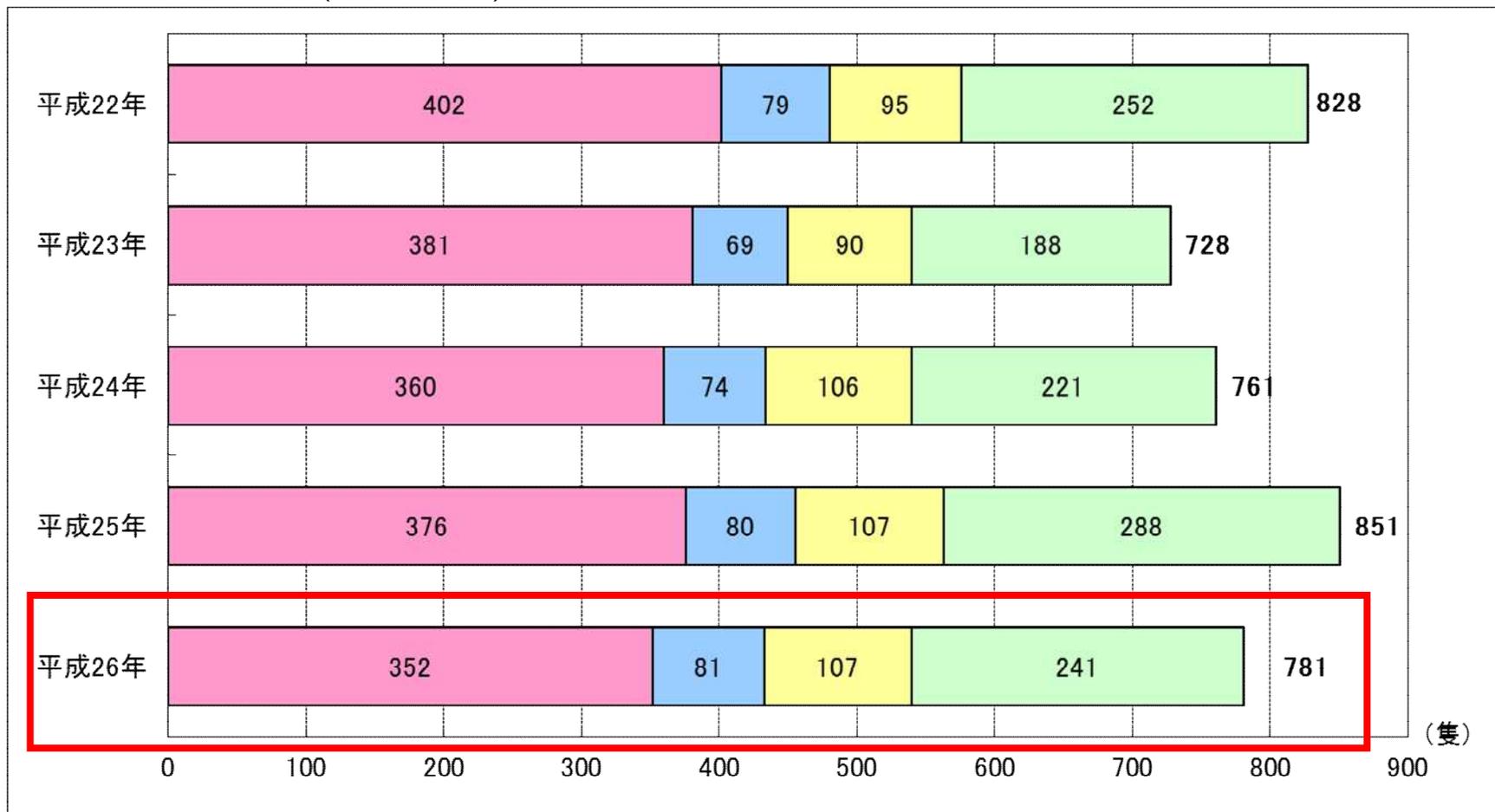
- (1) 調査日時：平成26年11月4日（火）12：00～6日（木）12：00
- (2) 調査場所：神戸市垂水区東舞子町（沖合）
- (3) 調査者：第五管区海上保安本部職員・神戸海上保安部職員
- (4) 調査方法：職員による双眼鏡等を使用した目視・48時間連続観測

明石海峡の任意の点を結んだ線上を横切った船舶数を積算

## 2 調査結果

### 平成26年度 明石海峡通航船舶実態調査結果(速報値)

< 通航船舶隻数(1日平均) >



□ 貨物船等 □ タンカー □ 旅客船等 □ 漁船

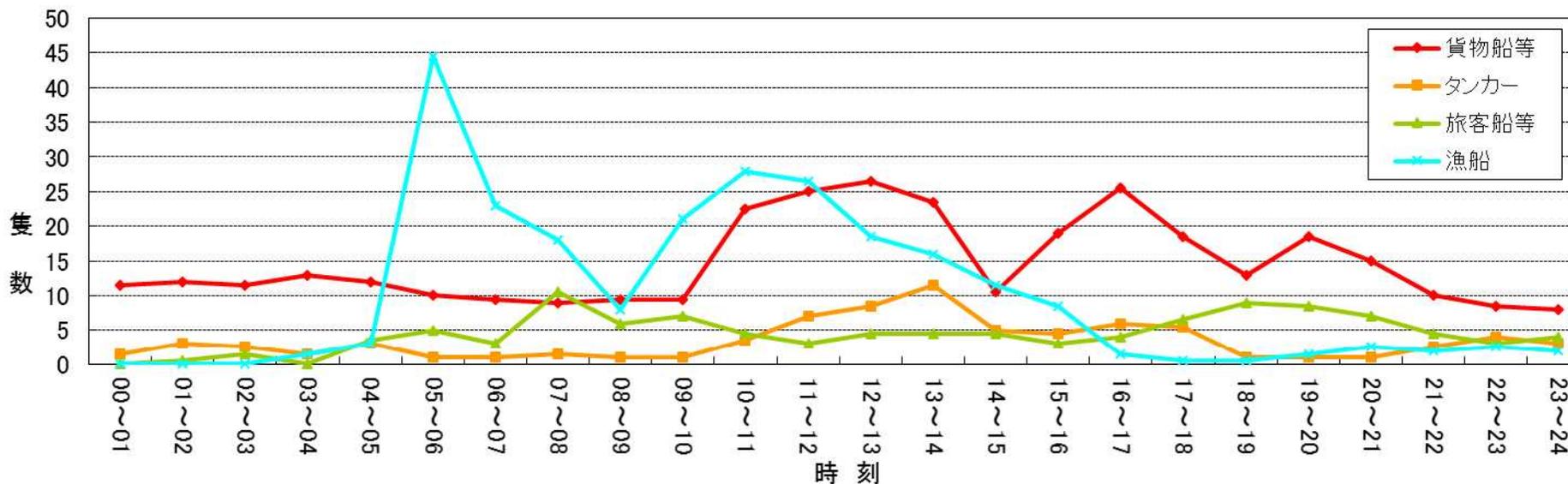
「貨物船等」とは、貨物船、えい航船、押航船及びその他(巡視船、自衛艦、独航えい・押航船等)をいい、「旅客船等」とは旅客船、カーフェリーをいう。

# 平成26年度 明石海峡通航船舶実態調査結果(速報値)

## < 方向別・時刻別通航隻数(1日平均) >



## < 船種別・時刻別通航隻数(1日平均) >



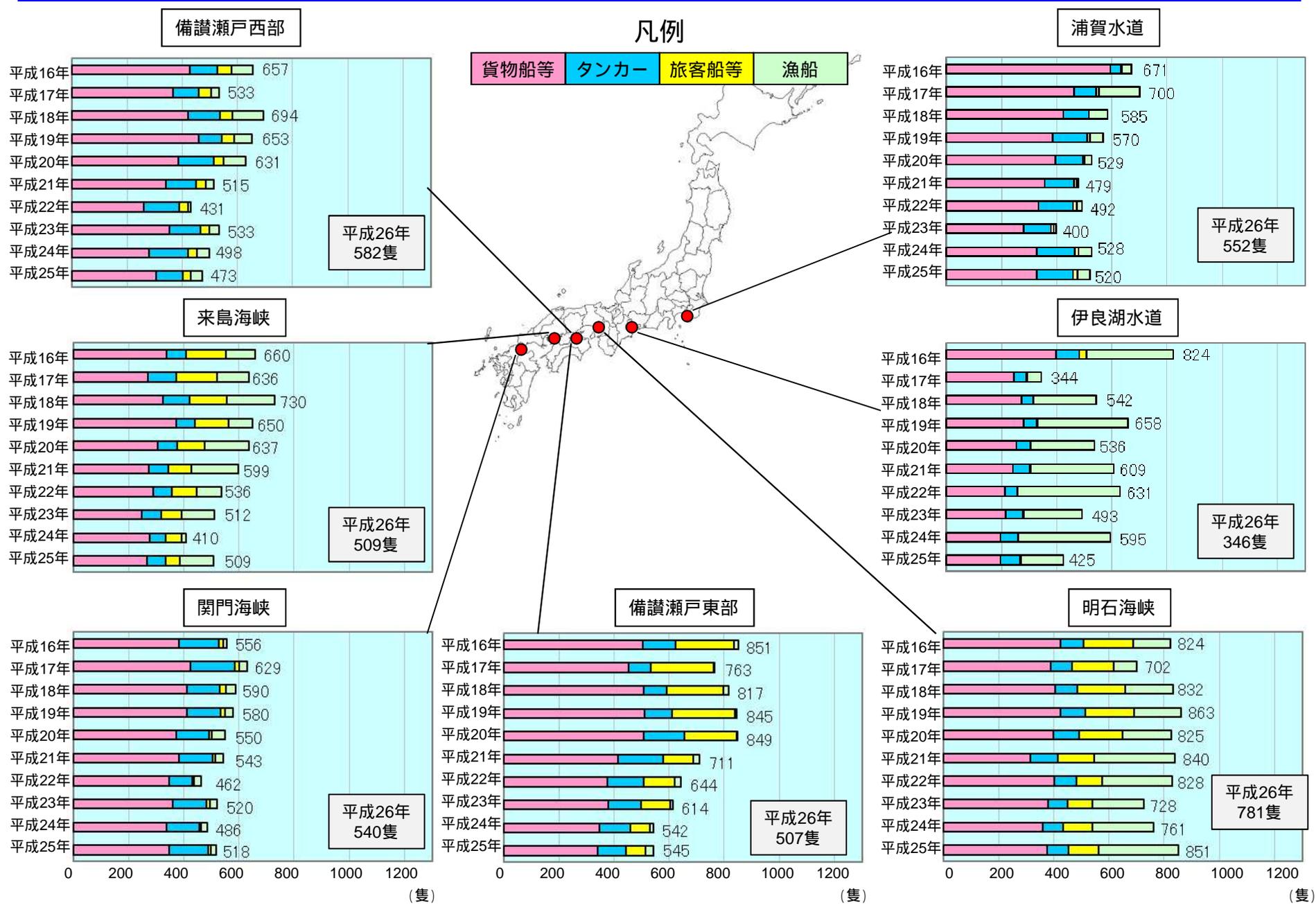
### 3 調査のまとめ

- ✓ 調査結果 7 8 1 隻の内訳は次のとおり（4 8 時間連続観測の 1 日当たり平均値）。  
貨物船等：3 5 2 隻（前年比 2 4 隻減）、タンカー：8 1 隻（同 1 隻増）  
旅客船等：1 0 7 隻（前年と同数）、漁船：2 4 1 隻（同 4 7 隻減）  
前年より減少した要因は、貨物船等と漁船が減少したことによります。
- ✓ 漁船が減少している顕著な要因は不明ですが、調査時期の天候、漁獲物の種類等によって出漁形態、出漁隻数に毎年差異が認められています。今年は、前年に比べて一本釣漁船の出漁が少なくなっています。
- ✓ 貨物船等の通航隻数は減少傾向となっています。  
また、管内の特定港への入港船舶隻数も減少傾向となっており、その一方で、貨物取扱い量は平成 2 2 年から回復傾向にあることから、船舶の大型化に伴う輸送回数の減少が要因のひとつと考えられます。
- ✓ 全国のふくそう海域の中で、明石海峡の通航船舶隻数は、平成 2 1 年から 6 年連続で日本一となっています。



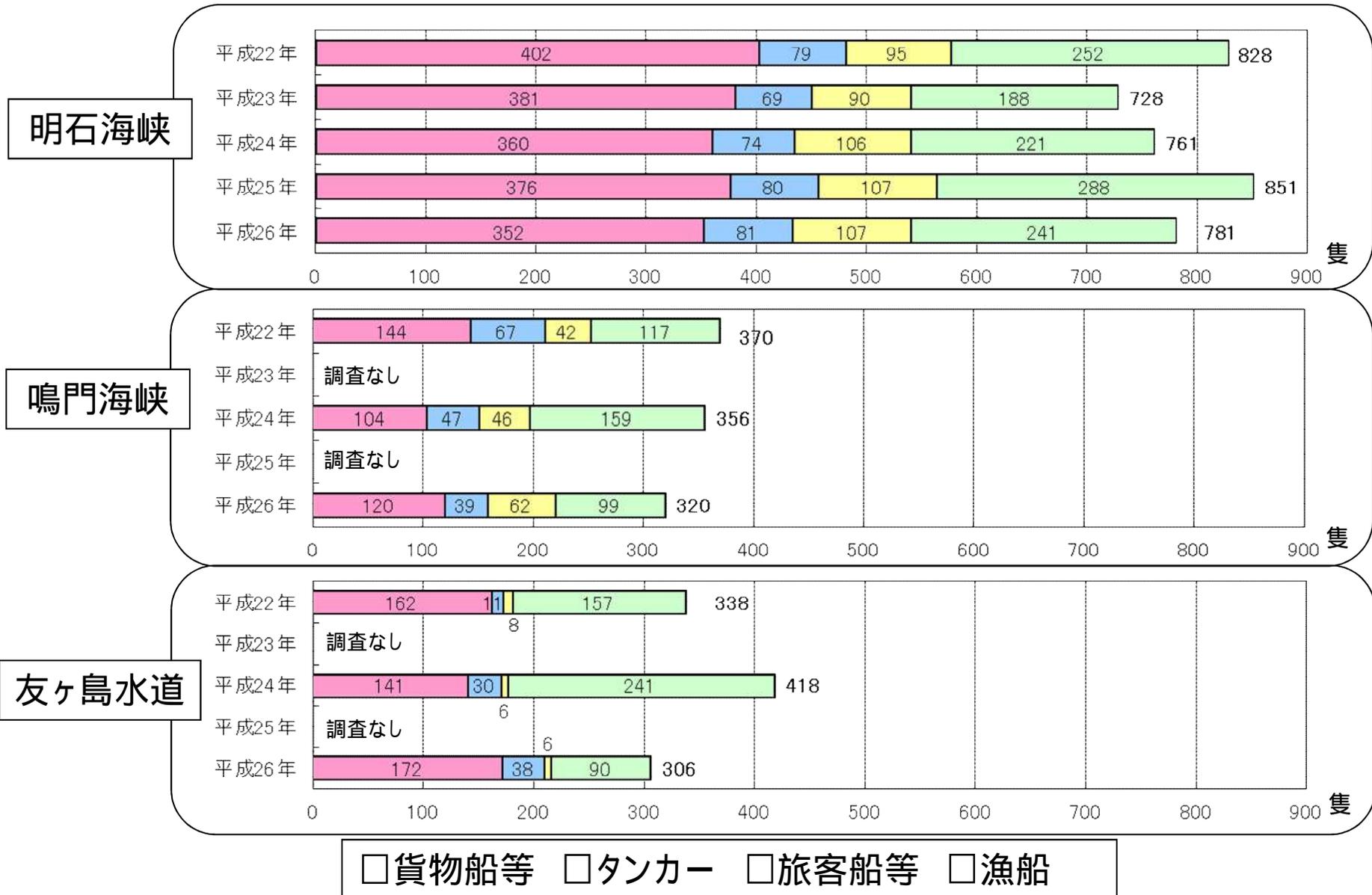
職員による調査と通航状況（資料）

# ふくそう海域における過去10年間の調査結果



# 管内の主要航路における通航船舶実態調査状況

## < 通航船舶隻数(1日平均) >



「貨物船等」とは、貨物船、えい航船、押航船及びその他(巡視船、自衛艦、独航えい・押航船等)をいい、「旅客船等」とは旅客船、カーフェリー、水中翼船及びエアクッション船をいう。